

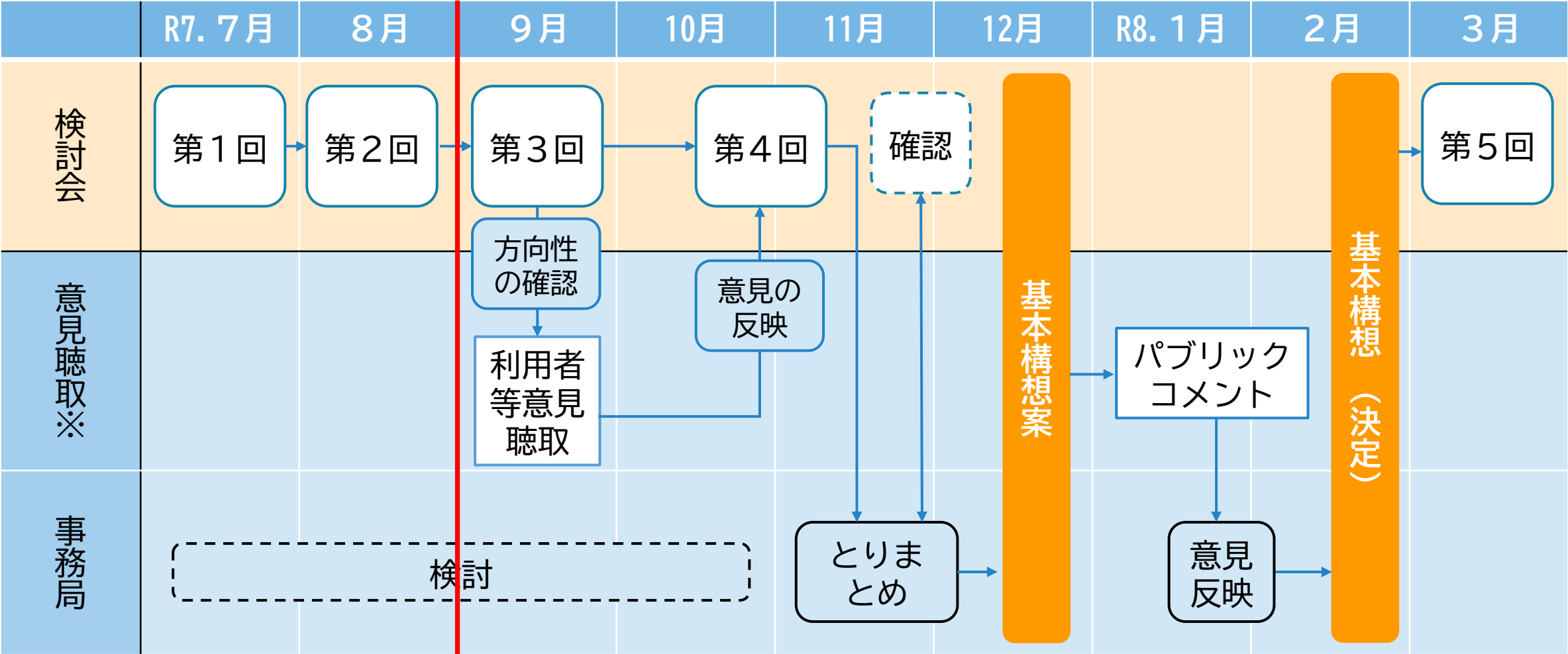
（仮称）新九段生涯学習館 基本構想検討会

—第3回—

検討会の流れの確認

		【第1回】 7月上旬	【第2回】 8月上旬	【第3回】 9月上旬	【第4回】 11月上旬	【確認】 11月中旬	【第5回】 3月
基本構想の主要素	○策定趣旨 ○基本構想の背景	意見出し	まとめ			基本構想案の確認	パブコメ結果・基本構想報告
	○めざす姿						
	○基本方針		意見出し	まとめ			
	○導入機能			たたき	まとめ		
	○施設の規模						
	○今後の取組み			意見出し			

▶ いただいたご意見・ご検討を踏まえ、委員長及び事務局にて最終的なとりまとめを行いご確認いただきます。



※本検討会では、第3回までに基本構想の構成要素をすべて検討した後、区民や利用者の皆様にも導入機能や規模についてご意見をお伺いし、第4回検討会にてフィードバックすることを予定しています。第4回検討会では、これらの意見も含め検討することを予定しています。

1 (仮称) 新九段生涯学習館の めざす姿・基本方針

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント①

■テーマ1

(仮称)新九段生涯学習館のめざす姿について

めざす姿は案①を支持する意見が多数 【案①：学び、つながり、未来へ「九段から始まる学びのサードプレイス」】

- 居心地の良い第三の場所の必要性が最も的確に表現されている。
- 人とのつながり、新たな活動への広がり、リタイア後の学びの場として評価。
- サードプレイスの概念は若い世代や働き世代も取り込める可能性がある。
- 忙しい中でも一息つける場としての役割が期待されている。
- 障害のある人にとっても「第三の場所」の考え方には関わりやすさがあるとの評価。
- 「学び、つながり、未来へ」というフレーズから、未来へ続いていく方向性が感じられる。

表現の抽象度への指摘

- 言葉は良いが抽象的との意見。

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント②

■テーマ1

(仮称)新九段生涯学習館のめざす姿について

「九段」という名称・位置付けについての議論

- 千代田区全体を考えれば必ずしも「九段」に限定する必要はないとの意見。
- 一方で、この地域から発信していこうと表現するために、「九段」を入れてよいとの意見。
- 「九段がつくる」については、九段という地名に限定される印象はあるものの、「ここから始める」という意欲や熱意、新しい取組が始まる勢いを表している点が肯定的に捉えることができる。
- 現状で施設認知度が低いため「九段」を入れることで周知効果があるとの意見。
- 利用者が「今度九段する？」と言い始めるような場になる可能性を期待する意見。

(仮称) 新九段生涯学習館のめざす姿 (案)

第2回検討会でのご意見を踏まえ、めざす姿案①を軸に作成しました。

多世代の交流を通じ、学び合いが広がり、文化を継承しながら地域がいっそう豊かになっていくイメージ案

めざす姿 案①	学び、つながり、未来へ 「 <u>九段</u> から始まる学びのサードプレイス」
めざす姿 案①'	学び、つながり、未来へ 「 <u>千代田</u> から始まる学びのサードプレイス」

※サードプレイス：自宅や職場とは異なる、居心地の良い「第三の場所」

案①' ポイント

- 「九段」から「千代田」に変更し、地域の限定をしない案

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント①

■テーマ2

(仮称)新九段生涯学習館の基本方針について

基本方針の内容について

- きれいにまとまっているとの意見。
- 5つの基本方針は全て良い。

「九段生涯学習館ならではの」の特色

- 九段生涯学習館ならではの取り組みを打ち出して魅力づけをしてはどうか。
例：先端的IT技術を活用した学びなど、「九段に行かないとできないこと」

生涯学習の明記

- 生涯学習館であることを踏まえ、基本方針の中に「生涯学習」を明示してはどうか。

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント②

■テーマ2

(仮称)新九段生涯学習館の基本方針について

表現の整理・重複解消

- 「誰もが気持ちよく利用できる」（方針①）と「誰もが安心して使える、快適で」（方針⑤）は重複しているとの意見。
- 「誰もが安心して気持ちよく使える」といった形に統合可能との意見。

縦のつながり

- めざす姿案①「未来へ」は世代間の継承＝縦のつながりを強調している。
- 基本方針案では、多様な人とのつながり＝横の広がり表現されているが、過去→現在→未来の縦のつながりも示す必要がある。歴史は千代田区の地域的な特徴である。

（仮称）新九段生涯学習館の基本方針（案） <第2回検討会で提示>

基本方針（案）

- | | |
|---|--|
| ① | 誰もが気持ちよく利用できる、質の高いサービスを提供します。
【運営・サービス】 |
| ② | 多様な人々が交わり、日常に開かれた、居心地のよい交流空間をつくります。
【多世代、多様な人、場づくり、交流空間、オープンスペース、カフェ、若者、子ども】 |
| ③ | 自分らしく学び、活動を通じて地域や社会とつながる場を育てます。
【個人・社会のウェルビーイング向上、マルチステージ型人生、コミュニティ、発信発表、在勤者】 |
| ④ | 変化する社会に対応できる柔軟で持続可能な施設とします。
【デジタル技術、多様なニーズにこたえる可変性ある空間設計】 |
| ⑤ | 誰もが安心して使える、快適で安全な施設とします。
【バリアフリー、ユニバーサルデザイン】 |

(仮称) 新九段生涯学習館の基本方針（案） 修正版

基本方針（案） 修正版

①'	(⑤' に統合)
②'	多様な人々が交わり、日常に開かれた、居心地のよい交流空間をつくります。 【多世代、多様な人、場づくり、交流空間、談話・休憩・飲食、若者、子ども】
③'	生涯を通じて自分らしく学び続け、地域や社会とつながる“活動の場”を提供します。 【個人・社会のウェルビーイング向上、マルチステージ型人生、コミュニティ、発信発表、在勤者】
④'	変化する社会に対応し、学びや挑戦を生み出す、柔軟で持続可能な施設とします。 【デジタル技術、多様なニーズにこたえる可変性ある空間設計、九段ならではの魅力を高める】
⑤'	誰もが安心して、気持ちよく利用できる、安全で快適な施設とします。 【運営・サービス、バリアフリー、ユニバーサルデザイン】
⑥new	※「過去→現在→未来の縦のつながり」を示した基本方針を検討 【学びの継承・連続性、歴史・地域性、「場」に根差した学び、過去→現在→未来の縦のつながり】

(仮称) 新九段生涯学習館の基本方針（案） 修正版

第2回検討会でのご意見を踏まえ、新たに基本方針⑥を設定し、「過去→現在→未来の縦のつながり」を示した案を作成しました。

基本方針new（案）	
A案	歴史と文化に根ざし、世代を超えて学びが息づく場をつくります。
B案	千代田の歩みを学びに変え、世代を超えて知がつながる場を目指します。
C案	歴史や文化を尊重し、世代を超えて学習と経験を継承できる“学びの架け橋”を目指します。

【学びの継承・連続性、歴史・地域性、「場」に根差した学び、過去→現在→未来の縦のつながり】

(仮称) 新九段生涯学習館のめざす姿

■テーマ1

(仮称)新九段生涯学習館のめざす姿について

- ・(仮称)新九段生涯学習館のめざす姿(案)①と①'について、どちらの案がよりふさわしいと感じますか。
- ・各案に対するご意見やご提案がありましたらお聞かせください。

(仮称) 新九段生涯学習館の基本方針

■テーマ2

(仮称)新九段生涯学習館の基本方針について

- ・(仮称)新九段生涯学習館の基本方針(案)修正版の各案についてご意見をください。
- ・新たな基本方針⑥の「過去→現在→未来の縦のつながり」を示した案についてご意見をください。

2 (仮称) 新九段生涯学習館の 導入機能と規模

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント①

■テーマ1

現施設の各機能の規模について

機能全般について

- 現施設の諸室について、縮小、拡大、現状維持を検討する場合、利用率の低い諸室については他との兼ね合いで見直す必要がある。
- 限られたスペースのなかで多様なニーズに応えるためには、複数の機能を兼ねる工夫が必要。
- 活動する場所と交流の場を併せることが、新しいデザインの検討において重要。

九段ギャラリー

- 高齢利用者でも扱いやすいよう、展示物の設置高さを手の届く範囲に調整希望。
- 出品準備用の作業スペースを引き続き確保してほしい。
- サークルごとに必要な広さは異なるが、可変パーティションで調整可能な現行の広さは概ね適切。
- 機能を兼ねる例としても、自然と目に入る場所に展示することで、人々が交わる機会を増やせる。

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント②

■テーマ1

現施設の各機能の規模について

実習室

- メンバー数が少ない場合、現状の広さはゆとりを持った使用が可能。電気炉が2台で便利。
- 作業室はある程度のスペースがないと使いづらくなる。
- 作品の乾燥スペースがやや不足しており、改善の余地あり。

レクホール、多目的室

- 利用率が非常に高いため、拡張したり幅広いスポーツに対応できることが望ましい。
- 音楽系の要望も多い。大・中・小の複数の部屋構成や小規模でも防音室であればパート練習ができ利用効率が向上すると考えられ、設備面も利用率に寄与する。
- ダンス利用も多いため、固定の鏡の設置が望ましい。
- 施設のスペースが十分に確保できるのであれば、用途が異なるため、運動と音楽で分離が望ましい。

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント③

■テーマ1

現施設の各機能の規模について

和室

- 和室（小）は狭く感じるとの声もあるが、実際は活動内容によって変わる。
- 茶室利用のために炉の設置を求める声がある。

会議室・集会室

- 数が多いが、稼働率の低い部屋は統合・集約が可能。
- 可動壁の導入で、汎用性を高めることが可能。

施設利用の利便性

- 駅近の立地は大きな楽器持参者に便利。
- 初めての利用者には場所が分かりにくいとの指摘があり、施設名・所在表示の工夫が必要。

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント①

■テーマ2

新施設に導入が期待されている機能について

音楽施設

- 音楽施設にはスタジオ機能（楽器常設・録音・配信可能環境）を整備し、若年層利用促進を図る。

自習室・図書室・ミュージアム機能

- 生涯学習館の機能として自習室・図書室を設ける必要性は低い。
- ミュージアム機能は地域文化発信の観点で一定の意義があるが、常設よりイベント活用が現実的。

第2回検討会での委員意見から導き出されたポイント②

■テーマ2

新施設に導入が期待されている機能について

休憩・交流スペース

- ・ 現状では休憩・待合スペースが不足。カフェスペースなど、くつろげる環境の整備が必要。
- ・ フリースペースだけでは管理上問題があるため、有料カフェや秩序を保つ工夫が望ましい。

授乳室・託児室

- ・ 独立した託児室があると、未就学児を持つ親世代の活動参加を促進できる。

機能の併合・交流促進

- ・ 複数の機能を兼ねるスペースを考えていく必要がある。

(仮称) 新九段生涯学習館の機能 (案)

第2回検討会で出た意見を踏まえ (仮称) 新九段生涯学習館の機能 (案) を整理すると以下のとおりです。

活動エリア	座学系の活動	語学、文化研究、時事社会、朗読、文芸、古文書 絵画、工芸手芸、写真、伝統文化、伝統芸能 囲碁、将棋、エンターテインメントなど	
	運動系の活動	体操、ヨガ、ダンスなど	
	音楽系の活動	歌唱、楽器演奏など	
交流エリア	展示・発表	ギャラリー、イベントスペース	
	オープンな活動空間	オープンスペース、打合せスペース(自習可能エリア)など	新規機能
	談話・休憩・飲食	待ち合わせ・休憩・飲食可能なスペースなど	新規機能

(仮称) 新九段生涯学習館の機能

座学系の活動



座学の活動



伝統芸能などの活動



絵画や陶芸等の創作活動

運動系・音楽系の活動



運動系の活動

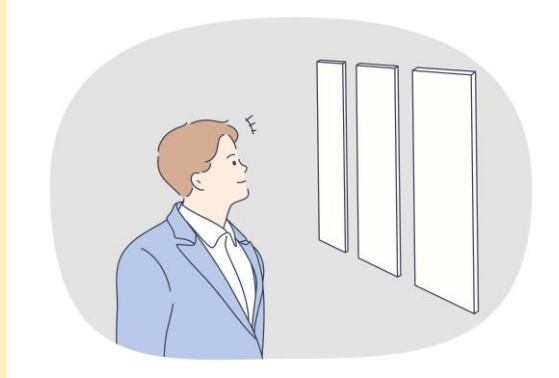


音楽系の活動

(仮称) 新九段生涯学習館の機能

交流エリア

展示・発表



多くの人の目にとまるオープンなギャラリーやイベントスペース

オープンな活動空間

談話・休憩・飲食

新規機能



打合せや自習
待ち合わせや活動後の休憩、飲食

座学系の活動 会議室・集会室

■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・利用率は、大規模・中規模では40～50％で維持傾向、小規模では20～30％台と低いが上昇傾向。
- ・第1学習室を除き、「狭すぎる」との意見が多い。
- ・ウェブ会議・配信ができる設備を求める意見がある。

■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・利用者はより広い部屋を優先すること、また料金差も大きくないことから小規模集会室の利用率が低い。
- ・小規模な団体や設立初期の団体がいるので、小規模集会室は必要。

■検討会での意見

- ・数が多いが、稼働率の低い部屋は統合・集約が可能。
- ・可動壁の導入で、汎用性を高めることが可能。

方向性
(案)

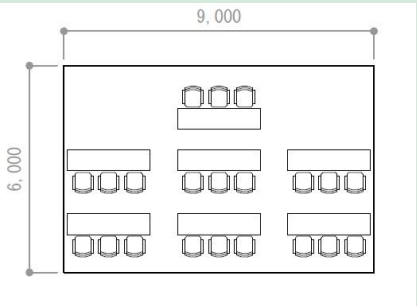
①利用率を踏まえ総面積を削減し、大規模1室・中規模5室・小規模2室に再編。

②可動式間仕切りで人数に応じた利用ができるようにする。

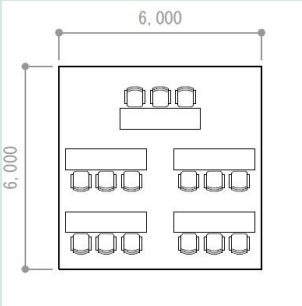
③活動の見える化を図るとともに、明るく開放的な空間とする。使い勝手のよい部屋の形・設えを検討する。

座学系の活動 会議室・集会室

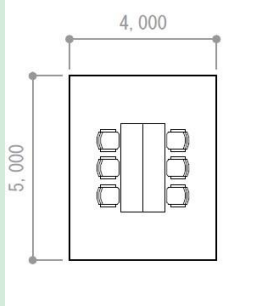
室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)	利用率 (%)	利用料 金(円) ※
第1学習室	83	45	51.8	2,500
第1集会室	46	33	45.4	1,800
第1会議室	37	14	56.7	1,300
第2学習室	27	15	49.4	1,100
第2集会室	19	12	54.9	900
第3集会室	14	12	27.7	900
第4集会室	14	12	30.0	900
第5集会室	14	10	36.7	900
第6集会室	14	10	33.0	900
第2会議室	28	10	—	—



〈大会議室イメージ〉



〈中会議室イメージ〉



〈小会議室イメージ〉



室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)
大会議室	約55	30
中会議室	約35	15
	約35	15
	約35	15
	約35	15
	約35	15
小会議室	約20	10
	約20	10

集約

座学系の活動 和室

■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・利用率は、和室大が約70%で上昇傾向、和室小が50%前後で維持傾向。
- ・和室大は「広すぎる」、和室小は「狭すぎる」との意見が多い。
- ・茶室（炉など）を求める意見がある。

■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・利用人数の実態は、和室大は5～10名、和室小は5～8名程度。
- ・着付けは5～6名で活動。和室小または集会室5・6（畳を敷く）を使う。
- ・ストレッチ・体操・ヨガは、活動によって和室大・小を使い分けている。
- ・靴を脱いで活動できる部屋として必要がある。

■検討会での意見

- ・和室小は狭く感じるとの声もあるが、実際は活動内容によって変わる。
- ・茶室利用のために炉の設置を求める声がある。

方向性
(案)

①和室小と同規模の部屋2室に再編。

②和室大を利用している靴を脱いで行う活動については、フローリングの軽い運動もできる部屋を運動系・音楽系の諸室として整備することで対応。

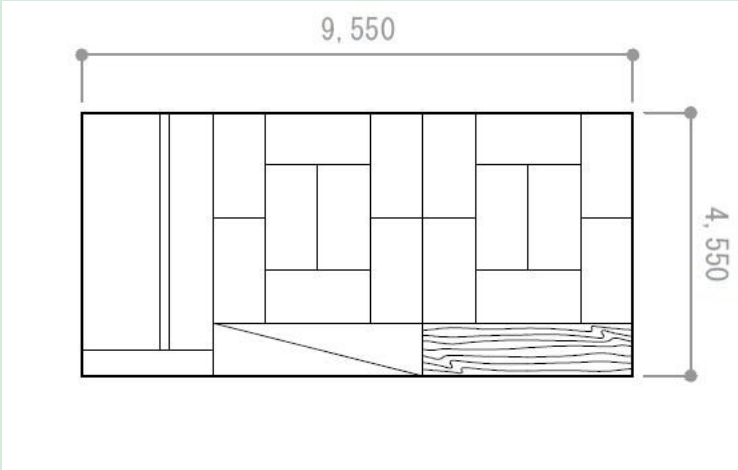
座学系の活動 和室

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)	利用率 (%)	利用料 金(円) ※
和室(大)	74	32	69.4	1,900
和室(小)	37	16	53.2	1,100



室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)
和室	約40	15
	約40	15

縮小



〈和室イメージ〉

座学系の活動 実習室・作業室

■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・利用率は20%台と低く、下降傾向。
- ・「広すぎる」との意見が多い。
- ・創作系の団体の活動人数は10人未満、多くて14人程度の傾向。

■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・陶芸の利用団体は現在6団体（3～5名、70代）。高齢化が進み、この5～6年で活動を中止した団体が1～2団体ある一方、新規登録団体はない状況。
- ・実情を考えると実習室の規模は必要以上に大きい。狭くすれば利用料が割安になり、多目的の利用を促すことができるのではないか。

■検討会での意見

- ・メンバー数が少ない場合、現状の広さはゆとりを持った使用が可能。電気炉が2台で便利。
- ・作業室はある程度のスペースがないと使いづらくなる。
- ・作品乾燥スペースがやや不足しており、改善の余地あり。

（案）
方向性

①陶芸専用の部屋から創作活動全般で多目的利用できる部屋への転換で利用率向上を図る。

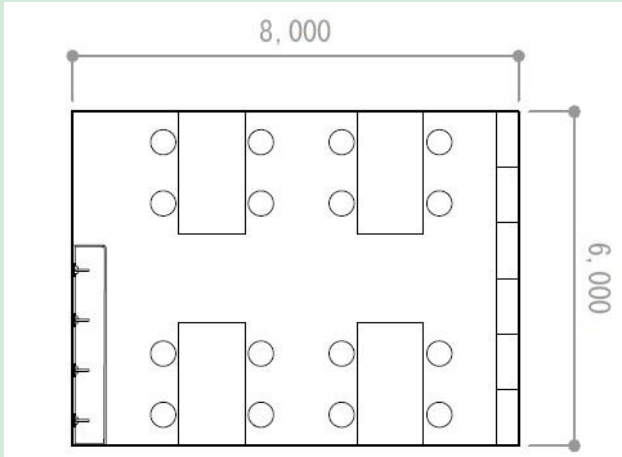
②規模は縮小（40名規模⇒15名規模）

座学系の活動 実習室・作業室

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)	利用率 (%)	利用料 金(円)
実習室、準備室、電 気炉置場	133	40	25.4	3,600



室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)	
創作室	約50	15	縮小
準備室、電気炉置場	約30	—	拡充



〈創作室イメージ〉

運動系・音楽系の活動 運動・音楽室

■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・利用率は、いずれの部屋も80%を超えて上昇傾向、曜日、時間帯によっては予約が取れない状況と推察される。
- ・音を出す活動を行う団体で「予約が取りづらい」ことを理由に他施設を利用するケースが多い。
- ・大きな鏡、ダンス仕様の床、高い天井、卓球ができる環境を求める意見がある。

■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・多目的室はダンス、音楽・視聴覚室は合唱や楽器練習、レクホールは楽器練習やダンスの利用が多い。
- ・レクホールの広さでしか活動のできない団体がある。
- ・少人数で楽器練習ができる防音の部屋のニーズは高い。

■検討会での意見

- ・利用率が非常に高いため、拡張したり幅広いスポーツに対応できることが望ましい。
- ・音楽系の要望も多い。大・中・小の複数の部屋構成や小規模でも防音室であればパート練習ができ利用効率が向上すると考えられ、設備面も利用率に寄与する。
- ・ダンス利用も多いため、固定の鏡の設置が望ましい。

方向性
(案)

①利用率を踏まえ、総面積の割合を増やし、大部屋2室・中部屋2室・小部屋（スタジオ）2室に再編。

②音楽でも運動でも利用できるような設えとする（楽器練習をメインとする部屋は防音、それ以外は吸音とすることを想定）。

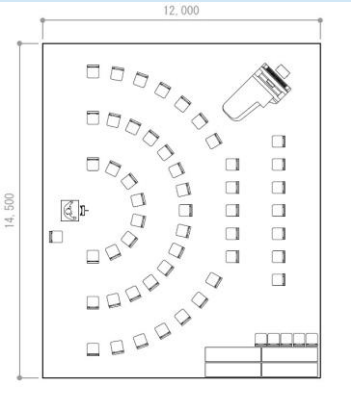
運動系・音楽系の活動 運動・音楽室

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)	利用率 (%)	利用料 金(円)
レクホール	163	100	91.2	3,900
音楽・視聴覚室	126	50	85.9	3,100
多目的室	70	35	83.9	2,200

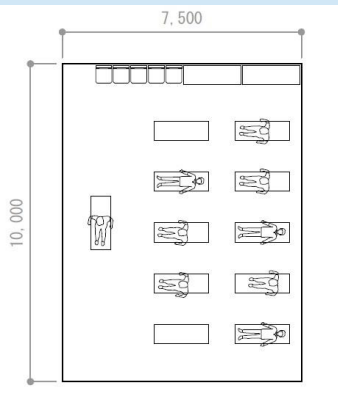


室名	室面積 (㎡)	最大 使用人数 (人)
運動音楽室大(舞台付き)	約200	100
運動音楽室大	約180	100
運動音楽室小	約85	35
	約85	35
スタジオ	約20	6
スタジオ	約20	6

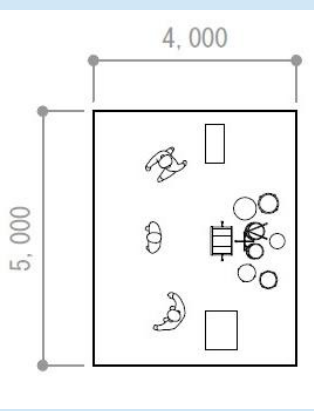
拡充



〈運動音楽室大イメージ〉



〈運動音楽室小イメージ〉



〈スタジオイメージ〉

成果共有 展示・発表

■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・ ギャラリーの利用率は40%台で下降傾向。
- ・ 広いスペースだが、展示やイベントがない場合は使用されていない。

■参考[管理者へのヒアリング結果]

- ・ —

■検討会での意見

- ・ 高齢利用者でも扱いやすいよう、展示物の設置高さを手の届く範囲に調整希望。
- ・ 出品準備用の作業スペースを引き続き確保してほしい。
- ・ サークルごとに必要な広さは異なるが、可変パーティションで調整可能な現行の広さは概ね適切
- ・ 機能を兼ねる例としても、自然と目に入る場所に展示することで、人々が交わる機会を増やせる。

方向性
(案)

①展示機能：人々が交わる機会を増やせるようロビーの一部として導入。展示だけでなく、生涯学習のきっかけづくりを目的としたイベントを開催。様々な利用者の目に触れ、施設の活気や賑わいを感じられる場所にする。展示やイベントのないときは、待合や休憩に自由に使えるスペースとすることも検討。

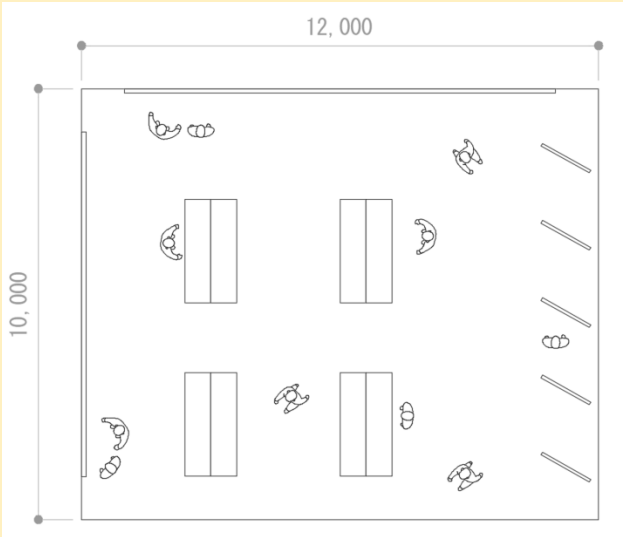
成果共有 展示

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)	利用率 (%)	利用料 金(円) ※
九段ギャラリー	145	50	46.1	3,000 (全日)



室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数(人)
ギャラリー	約120	-

同等



〈ギャラリーイメージ〉

交流促進 オープンな活動空間、談話・休憩・飲食

■参考[利用状況の分析・アンケート結果]

- ・ 休憩スペース、待合スペース、カフェを求める意見（早めに着いたときに待つ場所、飲食できる場所、休憩できる場所など）。
- ・ オープンスペース、フリースペース、打ち合わせできる場所を求める意見。自習室・図書室を求める意見。
- ・ 交流スペースを求める意見（子供が過ごせる場所、多世代が集まれる場、新しい仲間との出会い、又、ゆったりしたロビー、学びたい人の交流の場など）。

■検討会での意見

- ・ 現状では休憩・待合スペース不足。カフェスペースなど、くつろげる環境の整備が必要。
- ・ フリースペースだけでは管理上問題があるため、有料カフェや秩序を保つ工夫が望ましい。

方向性
(案)

①オープンな活動空間：打合せ、自習などの利用を想定。生涯学習活動が個室で完結するのではなく新たな出会いやつながり、活動が生まれることに期待。個人やグループで利用できるスペースの導入を検討。管理運営の工夫が必要。

②談話・休憩・飲食：エントランスロビーの一角に休憩スペースを設置。活動前後の待ち合わせや飲食機能などについて導入を検討。

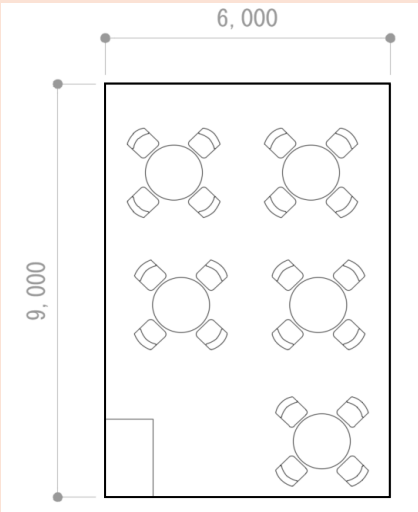
交流促進 オープンな活動空間、談話・休憩・飲食

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)	利用率 (%)	利用料 金(円) ※
-	-	-	-	-

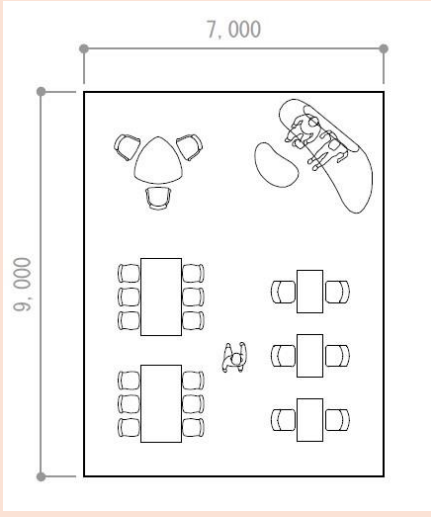
方向性
(案)

室名	室面積 (㎡)	最大 使用人 数 (人)
オープンな活動空間	約60	20
談話・休憩・飲食	約60	20

新規



〈オープンな活動空間イメージ〉



〈談話・休憩・飲食イメージ〉

機能配置イメージ

活動エリアは交流エリアを介してつなぎ、交流を促す動線とします。

また限られた空間では複数機能を兼ね、展示機能は日常的に目に触れる場所に配置します。

